

令和7年度 事業計画

(2025年1月1日より12月31日まで)

事業運営の基本方針

建築を含めた文化全般に対する世間の興味と関心を高め、建築文化の発展に貢献することを目的とし、4つのカテゴリの中から展覧会を企画する。ギャラリーでの展覧会会期中に、シンポジウム、講演会、ワークショップ等を開催するとともに、他の公益法人、機関等とも連携し、広範にわたり情報文化発信を行う。

1. 公益目的事業

(1) 展示事業 (定款 第4条第1号～第3号)

① 建築文化及び関連する支援活動

ア 「建築家・阿部勤の仕事 中心のある家」展

内 容 阿部勤(1936-2023)は、1960年に坂倉準三事務所に就職、1966年よりタイに学校を建設するプロジェクトに携わった際、現地に5年間滞在する中で、庇の下に日陰をつくり、風通しを確保しながら自然と共生する生活様式を実現する建築の要素を学んだ。同時期に設計した自邸は、壁に囲まれた空間の外と中をゆるやかにつなぐ回遊性のある構成で、いつの日か「中心のある家」と呼ばれ、名作住宅として広く知られている。坂倉準三事務所を独立後、戸尾任宏、室伏次郎と設立した建築研究所アーキヴィジョン1975年に室伏氏とアルテック建築研究所設立を経て、1984年に株式会社アルテックを設立し独立する。スウェーデンの画家カール・ラーションの”正しく古いものは永遠に新しい”という言葉を好んだ建築家の自邸を通じて、ライフスタイルに合わせ、より住まいやすくカスタマイズし心地よい建築の有り様を模索する。阿部勤は、2023年に86歳で生涯を閉じた。阿部の建築家としての思想を辿りながら、自邸「中心のある家」を中心に、家と建築家の関係を紐解く。

期 間 2025年4月4日から2025年6月26日

方 法 中心の家の原寸大模型(一部)、阿部が残した膨大なスケッチ、図面、模型等の建築資料のほか、愛用品、写真、自邸の動画、関係者へのインタビューなどで構成し、住まいとは何か、建築家と家との関係を考える。

イ 「廣村正彰 デザインの仮説と仮設」展

内 容 廣村正彰(ひろむら まさあき)はグラフィックデザイナーで田中一光デザイン室を経て、1988年廣村デザイン事務所設立。グラフィックデザインを中心に、美術館や商業、教育施設などのサインデザイン、CI、VI計画を多く手がけ、主な仕事に、そごう・西武、ロフトのアートディレクション、東京2020スポーツピクトグラム開発に携わる。現代社会は、ソーシャルネットワークや、人口知能によって、身体感覚や知覚を超えるほど、情報の伝達速度は加速し、デジタルテクノロジーは、人の生活や繋がり方を日々変えている。これらの生活の変化とともに、デザインも変わり、新しい時代の風潮は作られている。たとえば、人と人とのコミュニケーション、働きかた、性別への考え方、学びかた、自然とのかかわり方などは、気候変動やグローバリズムなどの様々な事象により変化している。そのような変化は逆に、窮屈さや不便を乗り越え、新しいアイデアや関係性を生み、次の世代へ受け継がれていく可能性を秘めている。そのような社会の中で、デザインの役割とは何か、また次世代を創るデザインとは何かを、グラフィックデザインの最先端をけん引し、幅広い分野で多くのデザインを創られてきた廣村正彰さんの仕事から考える。

期 間 2025年7月11日から2025年10月16日
方 法 廣村のデザインのエッセンスを、空間、サイン、照明、ランドスケープの分野から、その思想と次世代の環境への想いを紐解きながら、次世代の空間とグラフィックデザインの有り様を考える機会とする。

② 教育普及活動展

ウ 「松岡享子からの贈り物 本とおはなしの楽しさを子どもたちに」展

内 容 松岡享子は(2022年逝去)は、子どもと本が会う場所の大切さを伝え、その遺志を継ぐ東京子ども図書館は、現在も活発な活動が続いている。本企画は、財団設立へ尽力し、「翻訳者」として、また「作家」として、世界のお話を子ども達へ届けた松岡享子の功績を追う。
松岡享子は、神戸女学院の英文科卒。その後慶応大学の図書館学科に編入し、公立図書館の存在意義に目を開かれ、児童図書館員を志した。アメリカのボルチモアにある公共図書館にワーキングホリデーで就職する。帰国後、大阪市立中央図書館に勤務するが、児童奉仕をつづけることが出来ない状況に直面して職を辞し、石井桃子らの文庫で働く世話人たちの勉強グループに加わる。その後、東京で石井桃子らと共に家庭文庫をひらき、児童文学の研究、翻訳、創作に従事する。また「図書館員」として、多くの絵本や童話を子どもたちに届けてきた。「物語と本」を大切に思い、「子ども」の心に向き合い、やわらかい言葉で、あたたかな物語を語った。その言葉で世界の扉を開き、想像力を育くむ子ども時代を過ごした人は計り知れない。東京子ども図書館設立50周年を迎えた本年、松岡享子の「子どもの本」への思いに触れる機会とする。

期 間 2024年11月29日から2025年3月13日
方 法 松岡享子の生い立ちから、子どもへ、自ら働きかけて本の世界を届けたその業績を、年表、写真、テキスト、映像で紹介。松岡の声で届けるお話の世界、松岡が暮らした蓼科の山の家での暮らしぶりや蔵書を紹介。また東京子ども図書館の50年の活動記録を合わせて紹介する。書棚、アトリエの再現により、子どもが訪れやすい空間設計を施す。

③ 時代を反映したトピックス展

エ 「20周年記念展 建築・愉しむ GALLERY A⁴ =A³ (建築 Architecture) ×A？」展

内 容 ギャラリーエークウッドは2005年に設立し、「建築・愉しむ」をコンセプトに建築文化発信の拠点を目指して、活動を続けてきた。2025年は、設立20周年の節目を迎える。ギャラリーエークウッドは、20年間を通じて建築の分野から、ひとの暮らしの周りに広がる事が見つめてきた。近年の気候変動、ダイバーシティ、エシカルなどの社会課題は私たちが日々を生きる環境そのものであり、建築や住まいとは切り離せない。衣食住という生活の基盤をつかさどる暮らし文化を中心に据え、より良い未来を描くための、建築分野からの真摯なアプローチとして社会と建築文化の接点であり続けたい、と活動を続けてきた。20周年という節目にこれまでの軌跡をたどり、あらたなスタート地点として、「感謝」をテーマに、建築と市民の幸福な出会いの場の有り様を、振り返る機会とした。

期 間 2025年11月14日から2025年12月4日
方 法 映像やパネルから、これまでの歴史を振り返る。会期中にはトークイベントを開催し、この先の展覧会の在り様を一緒に考える機会とする。その他周年冊子の発行、森山開次のダンスパフォーマンスを開催する。

オ	「Finland Spirits SAUNA アルヴァ・アアルトのサウナ」展
内 容	<p>昨今、日本でもサウナブームといわれるほど愛好者が増えているが、フィンランドでは人口 550 万人に対し、サウナが 300 万か所あると言われている。人が集まるところには、必ずと言って良いほどサウナ施設が存在し、政治や外交にも欠かせない、コミュニケーションや社交の場ともなっている。フィンランドのサウナ文化は、世界的にもユニークな現象で、フィンランド人の誕生から死まで、また春から冬まで一年を通じて、祝祭と日常生活の両方に存在し、生活の中心として、アイデンティティの一部となっている。古くは 18 世紀にさかのぼり、カレワラ叙事詩やフィンランド語とともに、フィンランド人のシンボルとして、農村生活の中で育まれた。サウナで裸になることによって生まれる平等意識や、日常から解き放たれ、心身ともに癒されるひとときは、自然を愛するフィンランド人にとって、何よりも大切な生活文化として、現代まで受け継がれ、彼らの精神に深く息づいている。</p>
期 間	2025 年 12 月 19 日から 2026 年 2 月 26 日
方 法	<p>本展はアルヴァ・アアルト美術館の特別協力のもと、フィンランドサウナの魅力を紐解く。フィンランドを代表する建築家アルヴァ・アアルトの設計したサウナを図面、スケッチ映像を通し紹介、また学生のサウナ・デザインコンペも実施する。</p>

④ 現代アート展（当年は該当なし）

- (2) シンポジウム・ワークショップ（定款 第 4 条第 4 号）
 文化及び芸術に関するシンポジウム、セミナー等の企画、誘致及び開催
 ア～オの展示会関係として計画している。

- (3) 巡回展・アウトリーチ（定款 第 4 条第 7 号）
 この財団の目的を達成するために必要な事業

ア	裏磐梯高原ホテル企画1「ピート・アウドルフのナチュラルスティックガーデン ーいのちがめぐる庭ー」展
内 容	<p>2024 年度展示企画の巡回展。アウドルフの庭の事例をスケッチ、図面、写真、本人のインタビューなどの撮り下ろし映像より紹介。また、四季折々の植生の変化を楽しむガーデンづくりの手法を説明する。</p>
期 間	2025 年 2 月 1 日（土）～2025 年 3 月 31 日（月）
場 所	裏磐梯高原ホテル

イ	裏磐梯高原ホテル企画2「松岡享子からの贈り物 本とおはなしの楽しさを子どもたちに」展
	<p>松岡享子の生い立ちから、子どもへ、自ら働きかけて本の世界を届けたその業績を、年表、写真、テキスト、映像で紹介。松岡の声で届けるお話の世界、松岡が暮らした蓼科の山の家での暮らしぶりや蔵書を紹介。また東京子ども図書館の 50 年の活動記録を合わせて紹介する。</p>

期 間	2025 年 7 月～2025 年 9 月（予定）
場 所	裏磐梯高原ホテル

- (4) 芸術文化活動拠点提供（定款 第 4 条第 5 号）

建築及び芸術文化の表現活動拠点の提供

ア 東京都建築士会 「住宅課題賞」企画展

内 容 関東エリアの建築学部の卒業制作の優秀作品の展示

期 間 2025年10月23日から2025年11月6日

方 法 資料展示、パネルと模型資料による解説。公開審査による講評会を行う。

(5) 調査研究及び資料収集（定款 第4条第6号）

建築文化に関する調査研究及び資料収集

ア 過年度展示事業のアーカイブ化及び後年度展示事業の調査研究

内 容 過去の活動記録の整備次年度以降の展示事業について調査研究をする。

期 間 2025年1月1日から2025年12月31日

イ 企画・出版・教育・広報事業の調査研究

内 容 企画コンテンツの出版化について調査研究をする。

期 間 2025年1月1日から2025年12月31日

3. 法人の管理運営

- ① グランドデザイン構想の推進
- ② 内部統制システムの再整備
- ③ ファイル管理システムの構築と運用

以上